

令和3年度 授業改善推進プラン

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○学習指導要領
○東京都教育委員会教育目標
○港区学校教育推進計画

教育目標

○やさしい子 ○よく考える子 ○げんきな子

○学校・家庭・地域の願い
○保護者・地域の期待や願い
○期待される児童像

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

☆基礎基本の確実な定着 ☆校内研究、OJTの充実 ☆複数担当制の充実
☆算数少人数習熟度別指導の充実 ☆読書活動の充実 ☆言語活動とICT教育の充実
☆体験学習・調べ学習の充実 ☆国際科の推進 ☆「特別な教科」道徳の充実

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため次の取組を行います

道徳教育の指導の重点	教科名	取 組 内 容	生活指導の重点
○児童が主体的に道徳的価値を考えられるよう、児童や地域の実態に応じた資料を活用する。 ○学習の中に「自分の考えを議論する場面」や「役割演技をする場面」など様々な形態の活動を取り入れる。	国語	○発達段階に応じた構成メモを作成したり、そのメモを交流したりする活動を通して文章構成を意識した書く活動を系統的行えるようにしていく。 ○文章を書く際の相手意識や目的意識を明確にもたせられるような言語活動を設定したり、その相手や目的に応じた材料を吟味したりする活動を行う。	○相手の顔を見て自分から気持ちのよいあいさつができるようにする。 ○問題行動の指導の際は迅速な指導を行い、その児童を認める機会ととらえる。 ○教職員が連携を密にするために迅速な報告、連絡、相談を徹底する。
	社会	○調査活動や地図帳、地球儀、統計等の複数の資料から分かったことを表現し、比較・関連付けの学習場面を作っていく。 ○地図記号等の基礎的な知識を活用する場面を意図的・計画的に設定する。	
	算数	○統計的な問題では身近な題材から問題を設定する活動や集めるべきデータを考える活動、解決結果の妥当性を検討する活動などを系統的に設定していく。 ○様々な量の大きさを児童一人一人が実感を伴って理解できるよう、触れて確かめられる学習活動を設定したり、計器を準備したりしていく。	
	理科	○自然の事物・現象についてのイメージと、既習の内容や生活経験、実験、観察、映像資料などで調べた結果から導き出した結論とを意味付けたり関連付けたりする活動を、意図的・計画的に行っていく。	
	生活	○校庭や公園等の自然に親しんだり、季節ごとの変化を感じたりできるような指導計画を立て、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に児童自ら気付けるようにする。 ○試行錯誤して活動の楽しさや満足感、成就感などの手応えを感じられるような学習環境を整え、自らの学びを次の活動やこれからの生活に生かしたり、新たなことに挑戦したりできるようにする。	
	音楽	○聴き取ったことや感じ取ったことを関連付けて言葉などで表す活動を行い、得た知識を表現や鑑賞に生かせるようにする。 ○友達と互いの表現を聴き合ったり、考えを交流したりする活動を行い、他者の感じ方や考え方から自分の考えを広げられるようにしていく。	
総合的な学習の時間の重点 ○企業や地域と連携して単元初めに体験的な活動を取り入れたり関連する資料を見せてイメージを広げる活動を十分にとったりして体験したことから課題を設定していけるようにする。 ○施設や経験者に問い合わせる、実際に現場に行く、インタビューやアンケートをとる、など「人」と関わる経験を授業に取り入れる	図画工作	○多様な材料や道具に触れる経験をさせ、技能をスモールステップで積み上げることで確実に定着できるようにする。 ○日頃から校内に児童の作品を展示したり、伝統工芸品に触れられるような学習環境の整備を行ったりすることで、作品などのよさや美しさなどを感じ取れるようにしていく。	進路指導の重点 ○キャリア教育をもとに、将来の自分について具体的に考える活動を取り入れ自身自身に関心をもつことのできる授業を展開していく。中学との連携を図り交流をしていく。
	家庭	○目的に合った布製品を製作したり、家族の一員として食事の献立を作成したりするなどの児童が主体となって行う活動を取り入れる。 ○家庭で実践できる調理や裁縫に関する技能を身に付けさせるため、ICT教材を活用して映像を提示していく。	
	体育	○運動の仕方やポイントの分かりやすい資料や動画を児童に提示し、児童が協同的に動き方について確かめたり助言したりできるようにする。 ○多種多様な運動経験を積ませることで運動感覚を豊かにしていく。	

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○情操教育・文化的行事の設定（音楽会・学習発表会・花育） ○基礎学習タイムの設定 ○わくわくタイムの設定 ○三田アカデミーの充実	○時間講師・少人数指導の工夫 ○地域学校協働本部の活用 ○ICT機器の活用 ○体験学習・調べ学習の充実 ○言語活動の充実	○複数指導者による評価 ○指導計画の見直し、カリキュラムマネジメントの充実 ○外部評価の充実	○校内研究の充実 ○年間を通してのOJT研修の実施 ○主幹・主任教諭による伝達研修 ○服務事故（体罰）防止研修会	○地域学校協働本部の活用 ○家庭学習の工夫 ○個人面談の充実 ○開かれた学校づくり ○外部人材との指導連携